

Case Study

探究型学習を通して課題解決人材を育成

青翔開智中学校・高校

2014年に鳥取県東部で初の中高一貫校として開校した青翔開智中学校・高校。少子化が進む地域で新設に踏み切った背景と、人口減少地域における探究型学習について聞く。



副校長

織田澤 博樹

おたざわひろき ●電気通信大学大学院修了。日立製作所入社。おもちゃ企画会社、イベント運営会社を経て、2012年青翔開智中学校・高校の設立準備に携わる。教員としてデザイン思考をベースとした課題解決型授業を展開。

取材・文／本間学 撮影／青木幸太

地域資源やICTを活用した探究型学習

鳥取県は人口減少、少子高齢化が著しく、課題面では日本の最先端を行く県です。未来の日本の課題が身近に凝縮している地域だと言えるでしょう。ここで学ぶ子どもたちに必要なのは、受験に特化した中高一貫校ではなく「課題解決型の探究型学習を通して興味・関心を掘り下げ、進学やその先の進路実現への意欲を高める学校」だと考え、探究を教育のベールに置いた新しい中高一貫校を設立しました。

本校では探究型学習を、中1から高3にわたって、段階的に実施しています。最初に「クリエイティブ・フェーズ」で、地元企業と連携したPBLなどにグループで取り組み、社会とのつながりを強めます。次に「アカデミック・フェーズ」

「AI」など手法や切り口を変えながら、地域の課題発見と解決に取り組みます。最後に「パーソナル・フェーズ」で、自らテーマを設定し研究を進め、探究の集大成として修了論文を書き上げます。論文テーマはさまざまです。過去にはITで地元を活性化する研究や、スナック菓子に含まれる油脂に関する研究などに取り組む生徒がいました。これらの論文は書くだけでなく、発表会も実施しています。

こうした探究活動にはICTや図書駆使した情報収集が不可欠です。そこで全教室にWi-Fi環境を整備したり、オープンスタイルの図書館を建物の中心に設置したりするなど、施設・設備の面でも探究型学習に適した環境を整えています。

生徒はこれらを上手に活用して

学習を進めています。Skypeを使って東京にいる専門家に質問したり、オープンスペースで他の生徒と、書きながら意見をまとめたりといったことを自主的に行っています。

活動の評価にもITの活用は欠かせません。感情認識ソフトを使ってプレゼン時の表情や目線などをチェックしたり、テキストマイニングソフトを使って言語活用能力の評価をしたりしています。

探究のテーマ設定を通じ自らの進路を考える

「パーソナル・フェーズ」では、一人の教員が3人程度の生徒を担当します。研究のテーマは、「好きなこと」「得意なこと」「大切なこと」「社会から求められること」の4つの円が交わるところを考え、生徒と教員で対話しながら決

めていきます。このプロセスが本校では進路指導になっています。研究を進める過程で進路希望はさらに具体化され、論文を書くことで、小論文に求められる書く力も養われます。

その結果、本校の生徒は、一般的な学部・学科の枠組みから離れ、修了論文と同じテーマを「より深く学べる大学」「違った角度で学べる大学」を進学先として希望するなど、大学選びの基準が具体的です。そのため、AO・推薦入試での進学者が約半数に上ります。大学には、ぜひ本校の発表会などに足を運んでいただき、自学に合った生徒がいたら、スカウトしていただきたいと思います。

これからも本校では、定期テストの廃止や、教科学習と探究活動の融合などに取り組むことで、生徒の考える力や応用する力を高める教育の充実を図っていきます。



▲校舎中央に位置するオープンスタイルの図書館

青翔開智中学校・高校

鳥取県鳥取市 ▶2014年開校 ▶全日制・男女共学(普通科)生徒数253人(中高合計 2019年5月1日現在)

▶デザイン思考をベースに課題解決型のプロジェクト学習を中心とした探究型学習を展開

▶2018年度よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受ける

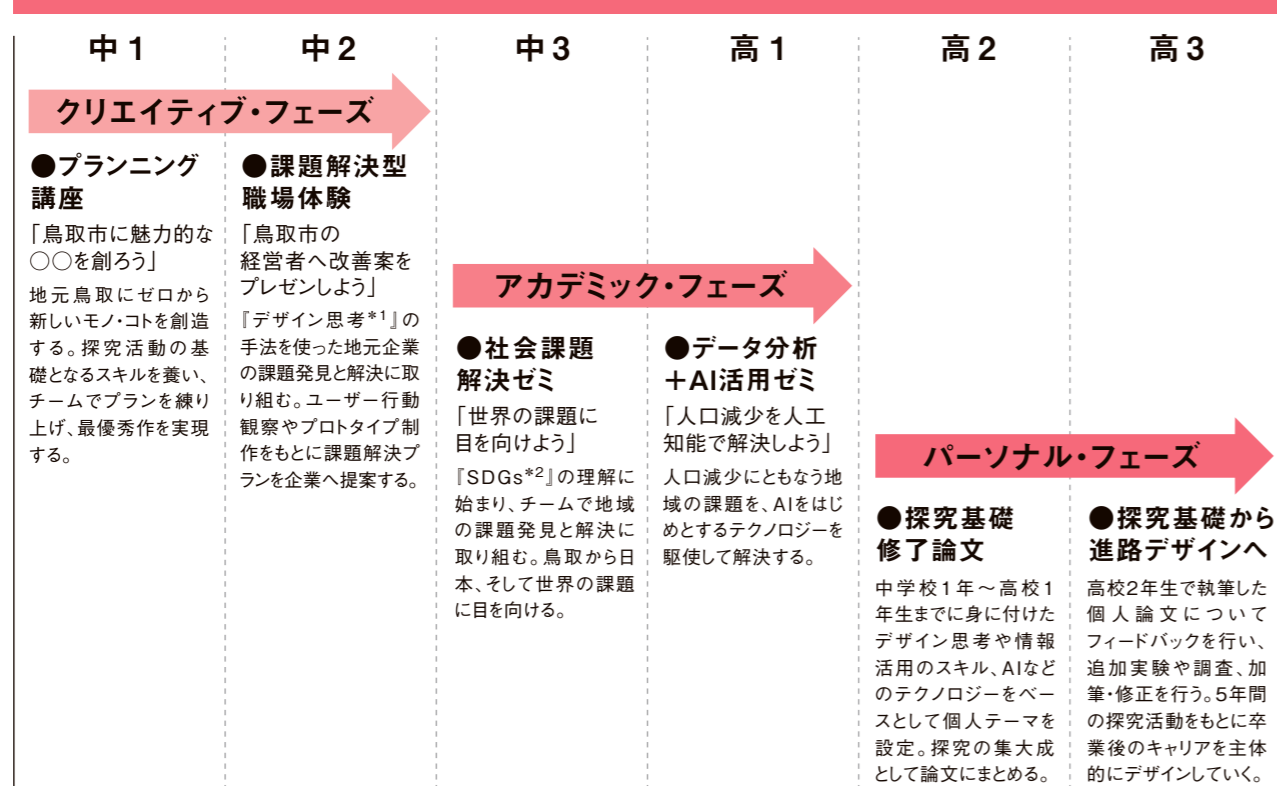
▶大学合格実績：国公立/5人 私立/早稲田、同志社、立命館、大阪芸術、関西学院、神戸女学院、近畿他(2019年)

教育目標

- 【探究】「好奇心+情熱」興味や問題点を自ら発見し、自発的・主体的に行動し解決できる生徒を育てます。
- 【共成】「協調+自律」自主自律の基、他者を重んじる人間を育成し、将来日本のみならず世界の各界で活躍できる生徒を育てます。
- 【飛躍】「挑戦+継続」「何を学びたいか」を大切に探究型学習で鍛えた好奇心と情熱を自分の進路実現へと結びつけ、自ら進路選択できる生徒を育てます。

学びのプログラム

探究型学習のロードマップ



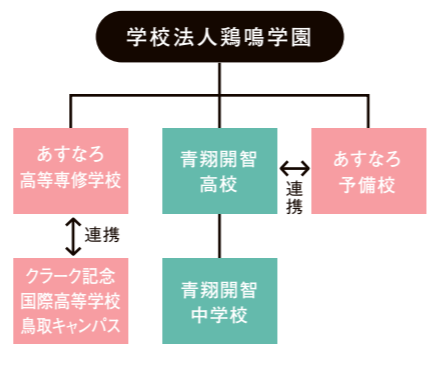
注目!

教育の独自性と学園内の連携により教育機関としての持続性を高める

青翔開智中学校・高校の設置者である鶏鳴学園は「公共性・独自性・持続性」を経営理念としている。「私学の最大の強みは独自性を許されていること。独自性を最大の特徴として地域の公教育との差別化を図り、その収益で持続性を保ちたい」と同学園の横井司朗理事長は語る。

同校の生徒は約9割が鳥取市近郊から集まるが、教員の3分の2は県外出身者。自由な挑戦を推奨する校風に魅力を感じ、チャレンジ精神にあふれる若い人材が集まってきており、それが教育改善の原動力になっている。また、学園内の連携も重要で、「受験指導の予備校、生徒指導の通信制高校、探究型学習の中高一貫校の3つが連携することで、一つひとつの学校の規模は小さくても教育や経営、人材育成において相乗効果が期待できる」(同理事長)。

【学園組織図】



*1 Appleの初期型マウスを手がけたIDEOが提唱する、課題解決の手法のひとつ *2 2015年に国連が示した、2030年に向けて世界を変えるための17の目標 *3 ビデオ通話や音声通話などを無料で利用できるソフト